

フシコベツ川水系河川整備基本方針

平成 1 6 年 5 月

北 海 道

フシコベツ川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	2
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
フシコベツ川水系流域概要図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

フシコベツ川は、北海道^{しらおい}白老郡白老町の北西部に位置する低山地(標高 58m)に源を発し、白老町^{きたよしわら}北吉原地区を貫流し太平洋に注ぐ、流域面積 7.0km²、幹川流路延長 5.5km の二級河川である。

フシコベツ川流域の土地利用の状況は、約 80%が平地であり、上流部の丘陵地は白老町の独自ブランドである「白老牛」が放牧され、中流部の平地は豊富な湯量を利用した温泉付き保養住宅が広がり、下流部の平地は白老町及びその周辺地域の主要な産業である製紙業の工場や市街地として利用されている。

フシコベツ川流域は、中・下流部に北海道の大動脈をなす道央自動車道や^{いぶり}胆振地方の経済・産業・観光にとって重要な国道 36 号及びJR室蘭本線が通っていることや、地域住民が豊かな自然と親しめる萩の里自然公園が整備されていることなど、白老町における重要な社会・経済基盤を形成している。

(2) 治水の現況

フシコベツ川水系は、過去の河川改修により直線的な整備が進められていたものの、全体的に流下能力が低いことから、台風や豪雨による洪水により容易に氾濫し、流域全体において度重なる浸水被害が発生していた。

昭和 58 年 9 月の豪雨による洪水では、中流部の住宅地を中心に家屋浸水 52 戸や町道遮断といった被害が発生しており、その後も昭和 60 年 9 月、昭和 61 年 9 月、昭和 62 年 8 月と浸水被害を頻繁に受けている。特に昭和 62 年 8 月の豪雨による洪水により、流域全体において家屋浸水 293 戸、そのうち床上浸水が 88 戸にもおよぶ浸水被害や、中流部の住宅地と下流部の工場及び市街地を唯一結ぶ町道が遮断するなどの大きな被害発生している。

この洪水を契機に、河口から 3.7km 区間について、抜本的な治水安全度の確保が望まれ、ほとんどの区間が現川拡幅による河川改修が困難なことから、新水路の掘削などによる改修を平成 2 年度より着手している。

この間にも平成 3 年 9 月の豪雨による洪水により、中・下流部を中心に家屋浸水 56 戸や町道遮断といった被害が発生しており、また、近年においても平成 9 年 9 月の台風 20 号による洪水により、家屋浸水 9 戸の被害が発生するなど、浸水被害が発生していることから、河川改修の更なる進捗が急務となっている。

なお、現在は下流部における一部の新水路区間において、河道の切り替えによる通水を開始している。

(3) 河川の利用の現況

フシコベツ川では、現在河川水の利用は行われていない。

河川の空間利用については、下流部で河岸を緩傾斜に改修している箇所や道内市町村の樹木を河川沿いに植樹している箇所では憩いの場や散策の場として利用されており、また、中流部では未だ人工的な水路の様相を呈しているものの、子供達が川遊びをしている姿が見られる。

(4) 流域の自然環境

フシコベツ川流域の気候は、太平洋側気候の胆振日高区分に属し、流域内に位置する白老町の年平均降水量が約 1,600mm と北海道内の平均降水量と比較しても多く、道内でも有数の豪雨地帯である。また、年平均気温は約 7℃であり、道内の平均気温と比較しても温暖で、気候の良い秋が長く続くため、冬の訪れは遅く積雪量は道内でも少ない地域である。

流域の地質は、一帯に第四紀系の沖積層が分布し、主な構成物は下流部の河口に広がる海岸平野では礫・砂等、中・下流部の氾濫堆積箇所では礫、砂等、低地堆積箇所では泥炭、粘土等で構成されている。

道央自動車道から上流部は、山地から連続するヤナギ林やミズナラ林が河畔林まで繁茂し、枝は川面を覆う緑のトンネルとなっている。水際にはクサヨシなどが密生し、その水上はヘイケボタル、根元はイバラトミヨの格好の生息場所となっている。また、砂泥の川底にはスナヤツメやシベリアヤツメ、エゾホトケドジョウなどが生息しているとともに、豊富な魚類を狙ったカワセミが河畔林に姿を見せている。

宅地を貫流する中流部は、カラマツ林やミズナラ林がところどころにみられるが、河道沿いは主にオオヨモギなどの草本が繁茂しているほか、低木層としてホザキシモツケが多く生育している。河道は直線的な水路となっているため水際の植生はないが、水中にはイトモやミクリ、ホソバヒルムシロなどの抽水植物がみられ、このような植物の根元に巣を作るイバラトミヨが多く生息している。また、上流部で確認されたヘイケボタルの生息域を拡大するため、河道の一部において生息環境の復元を行う整備が進められている。

工場や市街地を流れる下流部は、支流を合わせて緩やかな流れとなり、ミクリなど多くの植物がみられる。上流・中流にも生息しているイバラトミヨは下流でも多く生息しており、河畔林ではカワセミが魚を狙う姿も見られる。

新水路による河道の切り替え箇所は宅地として利用されているほか、ミズナラなどの広葉樹林が広がっている。

また、新水路への通水後の調査では、下流部において新たに降海型のイトヨが確認されている。

なお、水質については、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、平成 14 年度に新水路区間で実施した調査によると、BOD 値が 3.0mg/l 以下と B 類型相当であり、良好な水質を保持している。

(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害の発生状況、治水の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、沿川地域を洪水から防御するため、新水路の掘削等により河積を確保し、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図るものとする。

また、流域内に住宅等が密集しており過去に幾度となく浸水被害を受けていることから、整備途中段階における施設能力以上の洪水や、計画規模を上回るような洪水に対しては、水防管理者などの関係機関に対し、河川情報などの伝達体制の整備やハザードマップ作成等の支援を行い、被害の軽減を図るものとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、河川の利用状況や水質の把握等を継続し、魚類の生息や良好な水質などに配慮しつつ、関係機関との情報交換を図りながら、水環境の保全及び復元に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、新水路の掘削の際にヘイケボタルの生息環境の創出など、治水上支障ない範囲において、現況河川における動植物の生息・生育状況を踏まえた適切な措置を行うことや、中・下流部に広がる市街地における景観等に考慮しながら、良好な河川環境の整備と保全に努めるものとする。また、親水性が向上する河岸の緩傾斜化や河川沿いに道内市町村の樹木を植樹するなど、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

なお、実施にあたっては、地域の意見も踏まえつつ、治水と環境が調和した良好な河川環境となるよう努めるものとする。

河川の維持・管理については、日々変化する河川の状況を把握し、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等の観点から総合的に判断し、必要な措置を講ずるなど、適切な実施に努めるものとする。なお、河川管理施設等に関しては、常に良好な状態に維持してその機能を確保するものとする。

また、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供、共有することなどにより、河川と流域住民とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護精神の醸成、環境教育の支援並びに住民参加による河川管理を推進するものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、昭和 62 年 8 月の洪水を考慮し、きらめき橋基準地点において $40\text{m}^3/\text{s}$ とする。

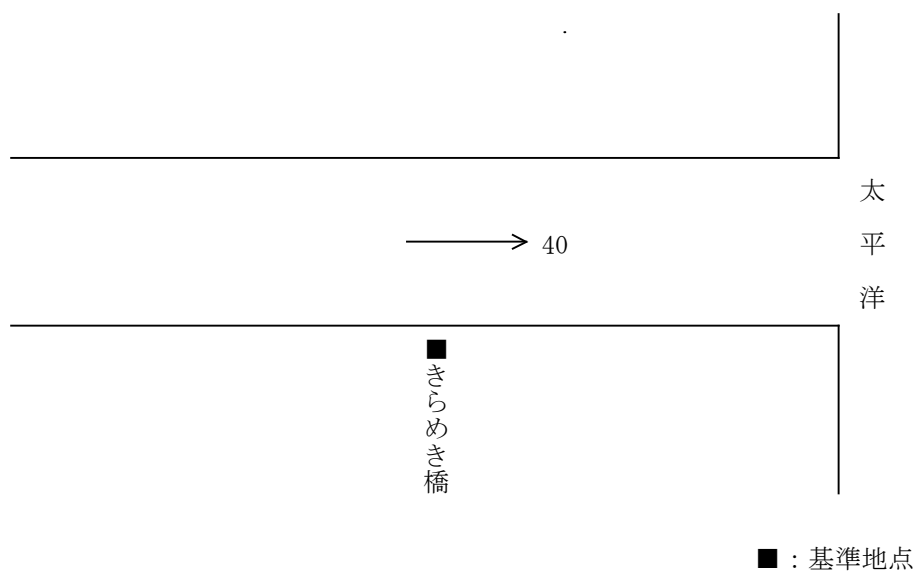
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位 : m^3/s)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
フシコベツ川	きらめき橋	40	—	40

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

フシコベツ川における計画高水流量は、きらめき橋基準地点において $40\text{m}^3/\text{s}$ とする。



フシコベツ川計画高水流量配分図(単位 : m^3/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

フシコベツ川水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P (m)	川幅 (m)
フシコベツ川	きらめき橋	2.0	4.93	20

(注) T.P : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

フシコベツ川において水利用はない。また、渇水被害が生じた事例はなく、水質が良好な水環境を呈している。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の河川状況の把握を行い、動植物の保護、流水の清潔の保持などを考慮して定めるものとする。

フシコベツ川水系流域概要図

